

2019年度 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会

2019年度学校関係者評価委員会は、「2018年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2018年度学校評価アンケート」（全校生徒・保護者対象。以下「アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観を今年度実施）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。

本委員会は次の3点を柱として協議しました。

- (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

(1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

聖公会関係学校の中では、松蔭は、キリスト教に根ざした「建学の精神」があまり出ていないように思われる。学校創立時の明治中頃は、教育勅語の発布や不平等条約改正運動などにより、キリスト教を排斥する国家主義的風潮が広がっていた。その後、大戦中のキリスト教主義教育が禁じられた時代を経て、現在は「open heart, open mind」をスクール・モットーに日々の礼拝や活動が行われている。生徒が身近に感じているものは、本校と関連のある授産施設のパン販売である。パンを購入することでそこで働く人を助けることに繋がっていることまで理解できておればよりよいのだが、生徒は本当に楽しみにしている。また、クリスマス直前に控えて世の中の人を思い、ピースツリーを飾り、クリスマス礼拝は燭火礼拝である。他にも希望者による教会バザーや広島平和礼拝への参加がなされている。好きな聖歌や聖書の箇所や礼拝での先生方の話を子ども同士でしていることなどを聞くと、しっかりと話を聴いているのだと分かる。テスト勉強で聖書の教を認識し、礼拝への参加でキリスト教主義が知らず知らずのうちに入っている。キリスト教主義を行う学校としての使命を果たしているように思う。学院モットーの由来である「一粒のからし種」のたとえのように6年間キリスト教の種がまかれて、それを受け止めて生徒が卒業していくことをうれしく思う。

(2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

短期の留学生が来ていた時に、体操服を持っていなかったその生徒のために体操服を2着持参していた生徒が3人もいたという話がある。また、同じクラスになったことのない人とでも仲良くなるということもある。それは学校のプログラムの中で行事などの交わりがきっかけになっている。身体と心の成長のアンバランスがある生徒には、保健室が居場所となっているようだ。保健室で話を聴いてもらうことで安定を保っている生徒の存在が想像される。養護教員は3人体制、スクールカウンセラーも2人が月曜日から金曜日にかけて常駐している。

高校入学生に対しては、高校から入学した上級生との交流の機会を持っている。一方で、課題としてボランティア活動に積極的に参加する生徒が少ない。これは日々の生活に追いたてられているのかもしれない。

人間関係はいろいろあると思って保護者も考え方を変えないといけないと思うが、あれやこれやという指導よりも見守ってくれている指導はありがたい。

保護者と教員の信頼関係のもとでより深い情報交換ができることを望みたい。

(3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

入試制度の変更云々が世間で取りざたされているが、「学校から必要な情報を発信していくので今実践していることをしっかりやればよい」という言葉に安心した。授業以外の先生にも質問できる環境はありがたい。「現行の入試の中でも今後変わる入試傾向が既に入っており、それを把握した上で演習の授業などは組み立てられている。学校から発信される情報に留意してほしい」ということには得心がいく。今後の入試制度改革では、学力の3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」のバランスが求められ、個別の大学では「一般入試」で面接や志望理由書等の提出が話題に挙がっている。「AO・推薦入試」でも小論文、プレゼンテーションや共通テストなどを通じて、学力を問う試験を必須化する方針が示されている。この結果、松蔭の生徒の多くがAO入試や推薦入試などを受験していくことが予想されるが、その対応として「PBL活動などをポートフォリオとして記録、様々な形での発信をしており、英語の力、国語の力をもって入試にチャレンジする」とのことで、その方向を期待すると同時に注視していきたい。

以上、2019年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約 (抜粋)

第2条 (目的)

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

第3条 (活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

第5条 (組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員6～8名

保護者代表 (PTA本部役員)、神戸松蔭女子学院大学代表、

卒業生 (千と勢会) 代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者

- 2、校長、副校長、事務長 4名